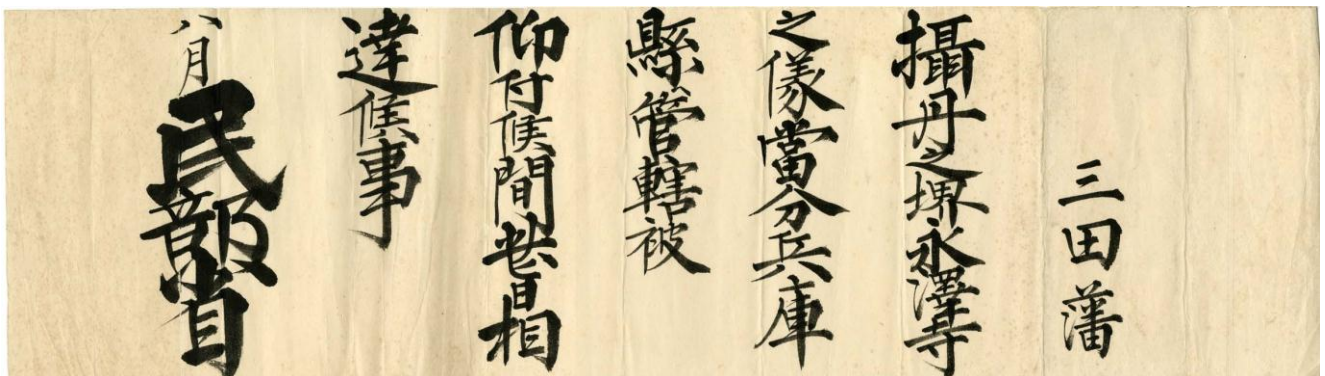


明治維新 一三田藩から兵庫県へ一

慶応3(1867)年10月の大政奉還によって江戸幕府による支配は終わりました。しかし、地方については従来からの支配のあり方がほぼそのまま維持され、実は各大名の統治機構が公式に「藩」と呼ばれるようになったのはこれ以降のことでした。三田藩の場合、従来から支配していた現在の丹波市や神戸市北区の一部のほか、慶応4年には一時的に現在の大阪府下に位置した旧幕府領などの一部もあわせて統治した時期があり、この時に「三田」の範囲は歴史上最も広くなりました。これは三田藩九鬼氏が摂津国せつつのくににおいては、尼崎藩や高槻藩などと並ぶ有力な大名であったことによります。

明治2(1869)年には、大名がもつ土地と人民に対する統治権を朝廷に返還する版籍奉還ほんせきほうかんが実行されましたが、もとの大名は新政府から知藩事ちはんじに任命され、相変わらず実質的な統治にあたっていました。現在の市内は、その当時、小柿を除く高平地区が麻田藩、永沢寺ようたくじは政府直轄の兵庫県、それ以外が三田藩に属していました。



新政府から三田藩あての文書

江戸時代以来の藩による統治を大きく変化させたのが、明治4(1871)年7月の廃藩置県です。その際に藩の領域はほぼそのまま県と改められたのですが、旧大名である知藩事はその職を解かれた上で元の領地を離れて上京が命じられました。これにより麻田藩・三田藩はほぼそのまま麻田県・三田県となる一方で、旧大名の統治権は公式に失われました。同年11月にはさらに大規模な再編が行われ、旧来の藩の地域的な枠組みもほぼ解体されて、現在の市域は旧麻田・三田両県ともに兵庫県に編入されました。なおこの時に旧三田県下の丹波国氷上郡の村々は豊岡県に編入されています。

これにより江戸時代に誕生した領域としての「三田」は一旦姿を消し、再び三田村や三田町という個別の地域を指す地名に戻ったのです。同時に大名九鬼氏のお膝元の陣屋町、地域を統治する中心地としての三田町の地位も一度は失われることになったのでした。